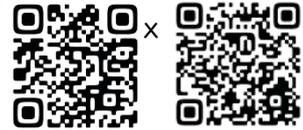




生駒市立鹿ノ台小学校

鹿小だより



鹿ノ台小学校

令和 8年 2月 3日

第 21 号

1月末から寒い日が続き、プールの水に氷が張った日がありました。

そんな冷え込んだ日の朝でも、運動場では遊ぶ子どもたちの元気な姿が見られます。中には、運動場で見つけた氷を大事そうに見せてくれた子がいました。大人にとっては冷たくて触りたくない氷ですが、子どもたちにとっては、わくわくが詰まった宝物みたいなものなのですね。



一方、同じ寒さの中、「手が冷たい」と言いながら正門そばの花壇まで、水やりに出かける環境委員会の子どもたち。「水道の水が出ない、どうしたらいいですか」と訊ねてきました。水やりは中止してもらい、「栓を締め直してくれた？ 融けたら水が出っぱなしになるから」と伝えると、「それはたいんへん」とばかりに栓を締め直しに駆けていきました。

2月になり、まだまだ寒い日が続きます。そんな中でも、季節の変化を楽しみながら、そして学校のために動ける子どもたちの姿に、あらためて頼もしさを感じています。

「見えないから」と「見えないけれど」について

2日に、オンラインで全校朝会を行いました、今回は、「相手には見えない」場面が出てくる4つのエピソードを紹介し『見えないけれど、真心を伝えようとする大切さ』について、次のように話しました。

《エピソード1》

わたしが住んでいるマンションで、リフォームをするご家庭があり、しばらくの間、エレベーター庫内の壁がプラスチックのボードで覆われていました。傷をつけないようにするためです。「落書きをしないで」の貼り紙がありました。「落書きする人なんているのかな」と思っていたら、3日ほどすると、落書きがされていました。さらに、次の日には、落書きが増えていきました。囲まれている空間で、他の人に見られないから、「ちょっとくらいならいいや」と思ったのでしょうか。誰かがやっているから自分も、と考えたのかもしれません。



《エピソード2》

電話を掛けているときに、お辞儀をしてしまう人がいます。「ありがとうございました」とお礼を言ったり、「すみませんでした」と謝ったりするときに、見えない相手に向かって頭を下げているのです。子どものときは、「相手には見えないのに、変だなあ」と思っていました。でも、言葉と行動はつながっていて、互いに影響し合うといえます。ふんぞり返っているのは、「ありがとう」の気持ちは伝わりません。たとえ相手が見ていなくても、姿勢や表情によって、声の響きや伝わり方は大きく変わってくるそうです。

《エピソード3》

わたしが学生のころ、学校の近くにおいしい玉子焼きの店がありました。そのお店は味以外でもある習慣で有名でした。客が帰るときに店の人がわざわざ外に出てきて深く頭を下げます。しかも、客が少し先の角を曲がるまでずっと頭を下げているのです。客が振り返っていなくても、ずっと下げています。相手が見ていないのだから時間の無駄じゃないかという人もいました。でも、店長はいいます。

「見られているからお辞儀をするのではない。感謝の気持ちをきちんと行動で表すことが大切なんです。本当の感謝の気持ちは誰かに見られているかどうかとは関係ないのです」

《エピソード4》

わたしが若いころ、視覚障害の方をお招きして子どもたちにお話をさせていただく機会がありました。当日、わたしはふだんどりのラフなジャージ姿のままでもその方をお迎えしました。「相手には見えないのだから、構わないだろう」と思っていたからです。すると同じ学年の先生がわたしに言いました。

「見えなくても、失礼にならない服装でお迎えしたいのです。見えていないからいい、という態度は、その方を軽く見ることになりませんか ——」

その先生は、スーツにネクタイ姿にわざわざ着替えていました。わたしはそのとき、「見えていないから手を抜いていい」という考えがとても恥ずかしくなりました。



4つのエピソードから2つの姿が見えてきます。

「見えないから、よくないことをしても大丈夫と考えるか、見えないけれど、真心を伝えようとするか」



人間はだれしも弱い心を持っていて、いつもかっこよくとはいかないものです。それでも、見られているからするのではなく、見られていなくても、よいことを選べる人でありたいものです。明日は節分です。心の中の鬼を退治できるといいですね。(全校朝会より)

むかしあそび

1年生は、地域の老人会の方に来ていただき、昔の遊びを教えてくださいました。教えていただいたのは、けん玉とお手玉、こま回しの3つです。多目的室でクラスごとに1時間ずつ、総勢15名がつきっきりで教えてくださいました。どの遊びも、独特の力の入れ方や抜き方など、子どもたちにはふだんあまり使わない身体感覚が求められるため、思うようにいかず何度も挑戦する姿が見られました。それでも、地域の方々は、根気強く寄り添い、できたときは手を叩いて大いにほめてくださっていました。子どもたちにとって、とてもあたたかく学びの多い時間となりました。

